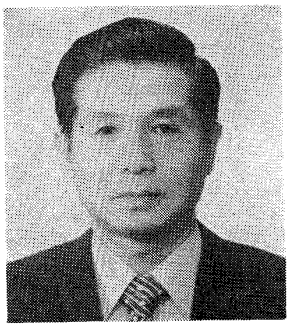
野　呂　賞

東京都立大学工学部元教授
宮　川　大　海君

協会誌とくに 70 周年記念特集号発行に尽力



君は昭和 24 年3月東京工業大学金属工学科を卒業後，昭和 25 年8月東京都立大学工学部機械工学科助手となり，昭和36年11月助教授，昭和 41 年 10 月教授に任ぜられ昭和 61 年3月退官現在に至つている．

この間，昭和 51 年8月本会編集委員に就任し，和文会誌分科会ならびに講演大会分科会を担当して以来，約 10 年間の永きにわたり一貫して本会の編集関連事業の発展に貢献した．とくに昭和 58 年度常務委員，昭和 58，59 年度編集委員長および評議員，昭和 59，60 年度編集担当理事を勤め，昭和 58 年5月より 60 年4月にかけて創立 70 周年記念特集号編集委員長として同特集号の編集において中心的役割を果した．同特集号は最近 10 年間における社会経済環境やエネルギー構造の変化に対応するわが国の鉄鋼技術の進歩と変遷について詳細に論じ，かつその将来動向をも示唆する豊富かつユニークな内容であり，英訳も欧文会誌特集号として公にされて国の内外で高い評価を受けている．

また本会では，時代の要請に応えるために，創立 70 周年に当たる昭和 60 年春季講演大会を期して，チタン合金や新しいプロセシングとそれによつてつくられたいわゆる新材料を中心とする萌芽境界部門を新設するとともに，既設各部門のより一層の拡充を図つたが，君は編集委員長として本企画の立案と推進に尽力した．

また，編集委員在任中，和文会誌分科会では材料部門の幹事を勤め，ステンレス鋼，耐熱鋼・耐熱合金，高強度薄鋼板各特集号の編集を担当するなどして会誌の内容の充実に尽すとともに，講演大会では永らく座長，会場担当委員などを勤めた．

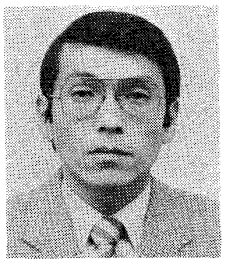
君は，永年にわたり主として耐熱鋼・耐熱合金の強度と高温耐食性改善の分野で多大の研究業績をあげ，その成果を本会会誌ならびに関連学会誌に約 90 編の研究論文として発表している他，9編の著書を公にしている．又これらの業績に対し本会西山記念賞，日本金属学会論文賞ならびに谷川ハリス賞，腐食防食協会論文賞等を受賞している．

俵　論　文　賞

日本鋼管(株)中央研究所福山研究所鋼材研究室
津　山　青　史君
〃　〃　〃　〃　主任部員
升　田　貞　和君
〃　〃　京浜研究所鋼材研究室室長
田　川　寿　俊君
〃　〃福山研究所鋼材研究室主任部員
平　沢　猛　志君
〃　〃京浜研究所鋼材研究室主任部員
鈴　木　治　雄君

極厚鋼板のザク圧着圧延条件と中心強圧下圧延法の開発

(鉄と鋼，71 (1985) 6，pp. 712～718)



津山君は昭和 55 年3月名古屋大学大学院工学研究科修士課程修了後ただちに日本鋼管(株)入社，中央研究所福山研究所鋼材研究室勤務となり現在に至つている．

升田君は昭和 51 年3月大阪大学大学院工学科修士課程修了後ただちに日本鋼管(株)入社，中央研究所勤務，昭和 52 年7月同所福山研究所鋼材研究室勤務となり現在に至つている．

田川君は昭和 47 年3月早稲田大学大学院工学科修士課程修了後ただちに日本鋼管(株)入社，中央研究所勤務，昭和 52 年7月福山研究所を経て，昭和 61 年1月同所京浜研究所鋼材研究室長となり現在に至つている．

平沢君は昭和 36 年3月岡谷工業高等学校機械科卒業後ただちに日本鋼管(株)入社，中央研究所勤務，昭和39年には鉄鋼短期大学に入学，41 年同大機械科卒業後，中央研究所勤務，昭和 49 年4月同所福山研究所鋼材研究室勤務となり現在に至つている．

鈴木君は昭和 50 年3月名古屋大学大学院工学研究科修士課程修了後ただちに日本鋼管(株)入社，中央研究所勤務，昭和 55 年から 57 年まで米国ペンシルバニア大学留学後，中央研究所を経て昭和 61 年1月同所京浜研究所鋼材研究室勤務となり現在に至つている．

本論文は，大型鋼塊から大単重極厚鋼板を圧延によつて製造する場合，鋼板内部に生じ易いザク性未圧着欠陥の防止を目的として，ザク圧着条件に対する基礎的検討